

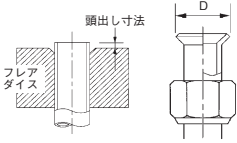
⑤ 冷媒配管

冷媒配管時の注意事項

- 冷媒配管は、新規配管をご使用ください。フレアナットは、製品付属のもの又は JIS B 8607 2種適合品をご使用ください。既設配管再利用の可否及び洗浄方法については、室外ユニットの説明書又はカタログ・技術資料を確認してください。
- 1) 再利用する場合、フレアナットは用途せずユニットに付属のもの又は JIS B 8607 2種適合品を使用すること。
- 2) 再利用する場合、部分的に交換した新しい配管に、R410A用のフレア加工をしてください。

冷媒配管接続口径、接続方式

口径	液配管		ガス配管	
	口径	接続方式	口径	接続方式
140	φ9.52	フレア接続	φ15.88	フレア接続
	φ9.52(内径)	ろう付接続	φ19.05(内径)	ろう付接続
224	φ9.52	ろう付接続	φ9.52(内径)	ろう付接続
	φ9.52	ろう付接続	φ22.22(内径)	ろう付接続



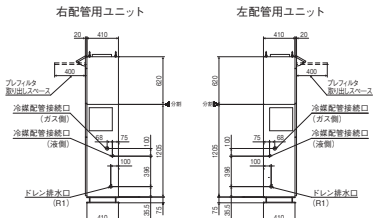
配管径 d mm	配管の最小肉厚 mm	フレア加工 突出し寸法 mm	フレア外径 D mm	フレアナット 締付トルク N・m
6.35	0.8	R410A用 従来ツール	8.9~9.1	14~18
9.52	0.8		12.8~13.2	34~42
12.7	0.8	0~0.5	16.2~16.6	49~61
15.88	1	0.7~1.3	19.3~19.7	68~82
19.05	1.2		23.6~24.0	100~120

- 冷媒配管は、リン脱脂銅合金無鉛管 (C1220T、JIS H 3300) をご使用ください。また管の内外面は美観であり、使用上有害な硫黄、酸化、ゴミ、切粉等 (コンタミ) の付着がないことを確認してください。冷媒配管の内部にコンタミの付着があると冷凍機油劣化などの原因になります。
- R410A以外の冷媒は使用しないでください。
- R410A以外 (R22など) の冷媒を使用すると、冷凍機油劣化などの原因になります。また空気などが混入すると、異常高圧になり、破裂などの原因になります。
- 据付けに使用する配管は室内に保管し、両端ともろう付けする直前までシールしてください。冷媒回路内に埃、ゴミ、水分が混入すると、油の劣化・圧縮機の故障の原因になります。
- 工具はR410A専用ツールを使用してください。

作業手順

- フレア接続、ろう付接続は以下のように行ってください。
- フレア接続
 - ・ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで2掛けて外してください。
 - (このときガスが出る場合がありますが、異常ではありません。)
 - ・フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで3~4回転ねじ込み、2丁スパナ掛けてしっかりと締め付けてください。
- ろう付接続
 - ・ろう付作業時は、ろう付部周囲を過熱しないように濡れタオル等で冷やしながらか実施してください。
 - ・ろう付作業時は、接続配管内に空室置換してから行ってください。
- ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。

配管位置

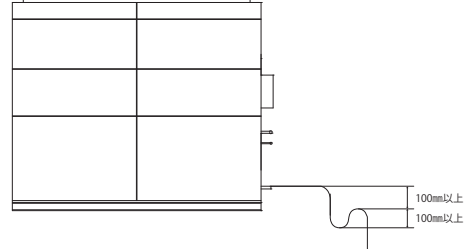


注意
同一締付けトルクでも、ユニオンのねじ部に冷凍機油を塗布した場合は、ねじ部摩擦係数が下がることにより、軸方向力が増加してフレアの配力偏食割れの原因となることがあるため、ユニオンねじ部、又はフレア外面への冷凍機油塗布は推奨しない。冷凍機油を塗布する場合は、フレア内面へのみとすること。

⑥ ドレン配管

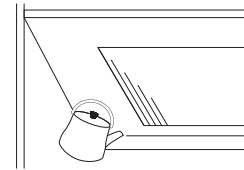
ドレン配管時の注意事項

- ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管してください。不確実な場合、屋内に浸水し、家財等を濡らす原因になることがあります。
- ドレン配管はイオウ系ガスなど有毒ガス及び可燃性ガスが発生する排水溝には、入れないでください。室内に有害ガス及び可燃性ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になることがあります。また熱交換器の腐食、異臭の原因になります。
- 接続部から水漏れのないように確実に施工してください。
- 水漏れが起こらないように、断熱工事を確実に行ってください。
- 施工後、ドレンが排水されていることを、ユニットドレン口及びドレン配管最終出口部で確認してください。
- ドレン配管は下り勾配 (1/100以上) とし、途中山越えやトラップを作らないでください。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けしないでください。試運転時にドレン排水が確実に実行されていることを確認してください。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保してください。
- ドレン配管は市販の硬質塩ビパイプ一般管 VP-25 を使用してください。
- トラップは、必ずユニット毎に付けてください。(下図参照)
- ドレン配管の出口は臭気の発生する恐れのない場所に施工してください。



ドレン排水テスト

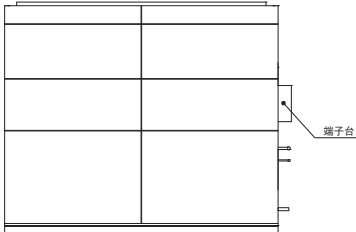
- ドレン配管工事後の完了後に、排水が確実に実行されていることを、接続部およびユニットのドレン部から水漏れのないことを確認してください。
- 硬質塩ビの継ぎ手の際にも必ず実施してください。
- フロートバルブをはずし、ドレンパンに1000ccの水を徐々に入れ、スムーズに排水することを確認してください。又、水漏れのないことを確認してください。



⑦ 電気配線取出し位置および電気配線接続

- 電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」 「内線規程」及び電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。
- 配線は、所定のケーブルを使用し確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定してください。
- 電源線と信号線は同一経路を通さないようにしてください。誤動作や故障の原因になることがあります。
- D種接地工事を必ず行ってください。
- 電気配線工事の詳細は、付属の電気配線工事説明書をご覧ください。なお、付属の電気配線工事説明書は、マルチ室ユニット共通で作成されており、一部本ユニットでは使用できない機能についても記載があります。使用可能な機能については、カタログや技術資料を確認してください。

(1) 電気品箱位置



(2) 電気品箱カバーの取外し方

カバー下部のカバー取付用ネジ2本を外して上部の引掛けを外すとカバーは外れます。

⑧ ユニット据付工事完了後のチェック項目

- ユニット・パネル据付工事、電気配線工事後、下記項目についてチェック願います。

チェック項目	不良だと...	チェック欄
室内外ユニットの取付けはしっかりしていますか。	落下、振動、騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない、暖まらない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレン排水はスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は本体の銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
配線の太さは仕様通りですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない、暖まらない	